

ひがしなかがわ に よ う る こ う じ

平成 25 年
第 56 号
2 月 1 日 発行

発 行 者



医療法人社団
小島 医院
高岡市東中川町6-10
TEL 26-1020
FAX 26-0573

http://www.kojimain.com

平成二十五年 の 想 い



小 島 明

昨年は、開院二十五周年記念に向けての行事があり、多忙な年であった。

記念式典をどの様にするかについて毎月検討を重ね、十一月十日に無事終了した。出席者は、職員二十七名、透析患者さん五名、関係者八名の計四十名で、ホテルニューオータニ高岡で行った。無駄な出費となったかは、今後の医院の状況に現れると思っている。

今年には政権が民主党から自民党に変わったが、景気が良くなるとは期待できない。前政権は、出費の多い議員を減らすといったが全く守られていない。約束を守らない者は、その責任を取らすべきではないか。無責任が横行する世の中では、信賞必罰が最も効果があると思う。

当院は、三十名の職員と多すぎ

と思われるが、外来、病棟十三床、透析十四床、デイサービス十名ではまだ足りないくらいだ。監査では、病院に準じた設備、人員、会議などが要求される。この要求を満たさないと医院経営は出来な

い。収入源である診療報酬については査定があり、治療のため良かれとしたことが減額される。

昨年から今年にかけて、空調設備、透析機器、電源装置の更新をしたが、その資金に悩んでいる。このままでは赤字倒産であるが、医療を志したからには放棄するわけにはいかない。職員一同も出来るだけ無駄を排し、経営に努力してもらっている。



新しい キュービクル

歴史小説で 日々を楽しむ

上 野 亮 平

日々の生活の中で心身を癒し、楽しませてくれるのは本と向き合っている時である。

読んでいるのは歴史小説や時代小説がほとんどである。中でも、時代を大きく変えた激動期をテーマとした歴史小説には目が無い。人間が織りなす哀歓や愛憎渦巻く人間ドラマに魅了され、ストーリーの中に埋没してしまう。

歴史小説の醍醐味は、何巻から成る長編ものを一気呵成に読破した時の快感である。何か大きな仕事を成し遂げた達成感を味わったような気になる。

こうした読者の要望に応えてくれた作家は、昭和の世に大衆文学を国民のものとして確固たるものにした吉川英治であり、平成にかけて司馬史観を確立した司馬遼太

郎の両先生に尽きる。共に文化勲章を受章され、国民的作家として、今もなお多くの人々に慕われ、愛読されている。非才な身であるが両先生の作品はほとんど読むことが出来、書棚も満載である。

最近では知力よりもより気力、体力の劣化、老化から長編ものには怖気がつき、短編の文庫本に偏っていることに年を感じている。

ところが、若かりし頃読んだあの感動を今一度その気に駆り立てたのは、昨年九月NHK大河ドラマ「平清盛」の放映を知ったからだ。最初に歴史小説の虜になった「新平家物語」を再び読み始めた。以来、吉川文学に魅せられ、この四月までに「私本太平記」「新書太閤記」を悪戦苦闘しながらどうにか読了することができ、ほっと安堵の息。

改めて、人間味あふれた吉川文学の素晴らしさに感動し、酔い痴れている。以下、泉下の吉川先生のご容赦を得ずに、全く皮相ながら独断と偏見で多少の感想を述べたい。

何れの作品にも執筆時の時代を背景に、吉川先生そのものが作品の中に登場している。「新平家物語」(昭和二十五年「朝日新聞」)

は戦後の平和を希求する心を医師「麻鳥」に託している。特に終章で吉野桜を観ながら「人間の幸せはこの辺りか」が印象的である。「私本太平記」(昭和三十三年)毎日新聞)では戦列逆賊とされた尊氏を見直す中で、楠木正成に温かいエールを送っている。「太閤記」(昭和十四年)読売新聞)では、秀吉そのものが吉川さんであり、秀吉そして「吾以外皆吾師」と述べているが、これは吉川さんの座右の銘である。不肖私もこの座右の銘に教えられ、做って生きていく。

歴史とは過去と現在との対話である。と言われるが、古今の名著を読むことは正に対話であり、「温故知新」の機会を与えてくれる。巷間、新刊が氾濫しているが、時には、歴史小説などで寛いでは如何ですか。

お節介を承知の上、お勧めする次第である。



一人暮らし 世帯三十三%に

永森 祺郎

平成二十五年一月十九日付の読売新聞に一人暮らし世帯二〇一五年に三十三%という見出しの文章が載った。

発表したのは国立社会保障・人口問題研究所である。記事を読むと、全世帯に占める「単身世帯」(一人暮らし)の割合は、晩婚・未婚や離婚の増加などを背景に、二〇一〇年の三十二%(一六七九万世帯)から、十五年には三十三%(一七六四万世帯)、三十五年には三十七%(一八四六万世帯)に増えると予測している。と書いてあった。

また、高齢化の進行に伴い、世帯主が六十五歳以上の高齢世帯は、十年の三十一%(一六二〇万世帯)から、三十五年には四十一%(二〇二二万世帯)に増える。高齢世帯のうちの単身世帯は、十年の四九八万世帯から、三十五年には一・五倍の七六二万世帯に膨らむとしており、一人暮らしの高齢者の介護や見守りなどの需要が高まることと予想される。と続けていた。三年前にT大教育世論研究所と

いう機関のお粗末なアンケートに接した(に よ う ろ こ う じ 五十三号 寄稿) 私としては、この研究所が果たして将来の社会の変動を展望した上でこの推計を作成したのか疑問に思ったので、いつも頼っている新聞社OBの友人に教えを請うた。すると、この研究所は厚生労働省の直轄機関であり働く人たちは厚労技官という国家公務員で大学院博士課程を経た研究熱心な人ばかりで、この統計は将来おこりうる社会を洞察した上で作られたものである。という答が返ってきた。

この短い文章には優秀な厚労技官の研究の成果が凝縮されているのかも知れない。しかし社会の片隅で生きるゴミのような人間としては、何年後、何十年後の数字を示すだけでいいのか、という思いが頭をもたげてくる。

こんな話がある。昨年私は高校の卒業生の関東在住者の同窓会に応援参加したのだが、席上ある人がこんな発言をした。夫を亡くした妻は十五年以上も元気で生きるのだが、妻を亡くした夫は一年半でダメになる、と。彼は税理士をしていて、中小企業の事業主や商店主と接してきて何度もそういう

場面に遭遇したのだろう。ダメになるといふのは社会的に無気力になってしまふ、ということであり高齢者をいかに社会全体で支えるかということを考えねば高齢社会は崩壊するだろうと言っていた。

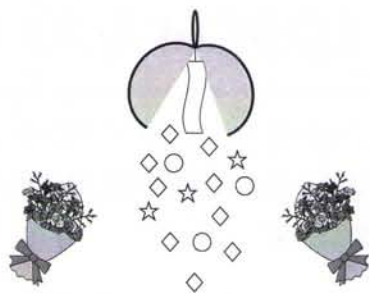
世帯構成の推移



一方、文章は高齢社会と同時進行している少子化については全く言及していない。現在の社会を見渡しても高齢結婚・高齢出産による精子や卵子の弱体化による弊害が議論されている。そして幼い頃から電子機器に触れることによる脳への影響の問題もある。ゲームなどしたことの無い私にとって近ごろのテレビCMのエスカレートぶりは正に「空恐ろしい」というのが実感である。

開院25周年記念祝賀会

平成24年11月10日(土) ホテルニューオータニ高岡にて開催



院長のあいさつ
「これから50周年を目指します！」



小島医院 開院25周年記念祝賀会



雅楽演奏



「鏡割り」

「乾杯！」



黒田節



田江地区さくらの会の皆様「獅子舞披露」



唄い「鶴亀」

ノロウイルスにご注意を!

ノロウイルス感染症 (ロタウイルス) について

<p>感 染 経 路 (発生時期)</p>	<p>感染した人の便や吐物に触れたり、乾燥して霧状化したものを吸い込むことで感染します。また、ウイルスに汚染された食品を介しての感染例もあり、冬季から春先に多く発生します。</p>
<p>症 状</p>	<p>嘔吐と下痢が主な症状で、ロタウイルスに罹患した乳幼児は下痢便が白くなることもあります。多くは2～7日で治りますが、脱水、まれにけいれん、脳症などを合併します。</p>
<p>治 療 法</p>	<p>有効な治療薬はありませんので、安静が第一です。嘔吐や下痢の症状は、原因物質を排除しようという体の防御反応なので、むやみに市販の下痢止めなどの薬を服用せずに、早めにかかりつけ医に診てもらいましょう。</p>
<p>予 防 法</p>	<p>うがいや手洗いなどの一般的な予防法が有効です。ノロウイルスはまだですが、近年、ロタウイルスのワクチンが任意予防接種として開始されました。</p>
<p>感染拡大予防法</p>	<p>ウイルスがついた水や食物、手を介して、またはそこから飛び散って感染するので、感染した人と接触した場合は、手洗いをしましょう。ノロウイルスはアルコール消毒は効果がないので、流水下で石鹸で手洗い。食器などは、熱湯（1分以上）や水で薄めた塩素系漂白剤で洗浄します。食品は85℃、1分以上の加熱が有効です。</p>



編集後記

昨年是小島医院開院二十五周年を迎えるにあたり、にようろうじ特集号の発行や、記念式典・記念旅行が盛大に行われました。どれも大変楽しい物となり良い思い出になりました。引き続き「にようろうじ」を年三回発行できる様にならば幸いです。

お詫び

前号(第五十五号)の小島先生と永森さんの文章に誤りがありました。大変申し訳ありませんでした。